

第2学年

令和元年度

シラバス

赤門鍼灸柔整専門学校

鍼灸指圧科

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 A
科目名	漢文学	曜日・時間	月曜日・3時限

【授業概要・目標】

1) 歴史的な中国語を漢文として読む際の知識を得る。2) 1) を運用して医古文を読むことができる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1		1	概説と医古文の実際に触れる
2		2	概説と医古文の実際に触れる
3		3	漢和辞典について (テキスト第三章)
4		4	短文を読む その1 (テキスト第六章 1~3)
5		5	短文を読む その2 (テキスト第六章 4)
6		6	鍼灸書と医古文読解の実際 その1 (テキスト第六章から)
7		7	短文を読む その3 (テキスト第六章 5~7)
8		8	鍼灸書と医古文読解の実際 その2 (テキスト第七章)
9		9	短文を読む その4 (テキスト第六章 8)
10		10	鍼灸書と医古文読解の実際 その3 (テキスト第八章から)
11		11	短文を読む その5 (テキスト第六章 9)
12		12	短文を読む その6 (テキスト第六章 10~11)
13		13	短文を読む その7 (テキスト第六章 12~13)
14		14	鍼灸書と医古文読解の実際 その4 (テキスト第八章から)
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)		
15	評価点検	15	

評価の方法	ペーパー試験 8割、提出物 2割。
授業の進め方	原則としてテキストを用いる。
注意 (学生に望むこと)	予習復習を怠らないこと。授業時間内で当該時間部分が終了しないことがある場合、当該部分のダイジェストとなる場合が想定されるが、残った部分は自習となるのでこれも怠らないこと。
使用テキスト・参考書	『漢文で読む『靈枢』(増補改訂版)』 浦山きか著、アルテミシア。

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 B
科目名	漢文学	曜日・時間	月曜日・3時限

【授業概要・目標】

1) 歴史的な中国語を漢文として読む際の知識を得る。2) 1) を運用して医古文を読むことができる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1		1	概説と医古文の実際に触れる
2		2	概説と医古文の実際に触れる
3		3	漢和辞典について (テキスト第三章)
4		4	短文を読む その1 (テキスト第六章 1~3)
5		5	短文を読む その2 (テキスト第六章 4)
6		6	鍼灸書と医古文読解の実際 その1 (テキスト第六章から)
7		7	短文を読む その3 (テキスト第六章 5~7)
8		8	鍼灸書と医古文読解の実際 その2 (テキスト第七章)
9		9	短文を読む その4 (テキスト第六章 8)
10		10	鍼灸書と医古文読解の実際 その3 (テキスト第八章から)
11		11	短文を読む その5 (テキスト第六章 9)
12		12	短文を読む その6 (テキスト第六章 10~11)
13		13	短文を読む その7 (テキスト第六章 12~13)
14		14	鍼灸書と医古文読解の実際 その4 (テキスト第八章から)
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)		
15	評価点検	15	

評価の方法	ペーパー試験 8割、提出物 2割。
授業の進め方	原則としてテキストを用いる。
注意 (学生に望むこと)	予習復習を怠らないこと。授業時間内で当該時間部分が終了しないことがある場合、当該部分のダイジェストとなる場合が想定されるが、残った部分は自習となるのでこれも怠らないこと。
使用テキスト・参考書	『漢文で読む『靈枢』(増補改訂版)』 浦山きか著、アルテミシア。

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 AB
科目名	心理学	曜日・時間	月曜日・1時限

【授業概要・目標】

人間理解のための「心の構造と機能」の基本的研究の成果を講じ、医療現場におけるクライアント理解のためのコミュニケーション心理学を言語研究の領域からアプローチする。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	心理研究の歴史展開	1	学習と記憶の過程
2	脳機能の概略	2	学習と記憶の過程
3	脳と心の関係	3	言語の発達と心理的変容
4	脳と心の進化と発達	4	思考と言語表現の関連
5	脳と知覚・感覚	5	言語コミュニケーション
6	体格の研究の歴史	6	非言語コミュニケーション
7	性格の構成要素	7	対人コミュニケーション
8	性格の検査方法	8	対社会（集団）コミュニケーション
9	性格検査（テスト）の実際	9	情報社会におけるコミュニケーション
10	知能の研究の歴史	10	心理的正常と異常
11	知能の構成要素	11	心理障害と心理療法
12	知能の測定方法	12	心理障害とカウンセリング
13	知能検査（テスト）の実際	13	カウンセリングの理論と実際
14	学習の研究の歴史	14	心身医学と心理学
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	定期試験の成績による評価
授業の進め方	講義において、DVD（VTR）視聴、簡易実験、検査（テスト）を実施。
注意（学生に望むこと）	配布される資料・図版等のプリント類は、毎時持参すること。
使用テキスト・参考書	テキストは印刷物として配布。参考書は

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 AB
科目名	運動学	曜日・時間	金曜日・1時限

【授業概要・目標】  
解剖学と物理学の立場から生体の動きを観察・分析するのがキネシオロジーである。「リハビリテーション医学」の基礎の1つをくわしく理解する。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	はじめに（目的、意義、評価法）	1	生体力学-1（力学の基礎）
2	運動の種類、表記法	2	生体力学-1（力学の基礎）
3	運動の面軸方向、骨運動と関節運動	3	運動発達
4	筋力、筋収縮、運動の制御（1）	4	上肢の関節の運動（肩 1）
5	運動の制御（2）、反射・随意運動	5	上肢の関節の運動（肩 2）
6	姿勢（1）、重心・安定性	6	上肢の関節の運動（肘・前腕）
7	姿勢（2）、神経機構	7	上肢の関節の運動（手部）
8	歩行（観察法、歩行周期）	8	下肢の関節の運動（骨盤・股関節）
9	歩行（1ストライドの内容）	9	下肢の関節の運動（股関節）
10	歩行（運動学的分析-1）	10	下肢の関節の運動（膝部 1）
11	歩行（運動学的分析-2）	11	下肢の関節の運動（膝部 2）
12	異常歩行（1）	12	下肢の関節の運動（足部・足関節）
13	異常歩行（2）	13	体幹・脊椎の動き（1）
14	姿勢・歩行のまとめ	14	体幹・脊椎の動き（2）
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	1. 定期試験 2. 随時行う小テスト 3. 素晴らしい反応をした学生には持点を与える
授業の進め方	講義形式であるが、問答も取り入れる。
注意（学生に望むこと）	解剖学（特に筋骨格系、神経系）を十分に学習すること
使用テキスト・参考書	<テキスト>：佐藤著「キネシオロジーノート」（4訂版） <参考>解剖学の教科書

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 AB
科目名	病理学概論	曜日・時間	水曜日・1時限

【授業概要・目標】  
他の医療従事者と共通認識が持てるよう基礎的な病理学の知識を習得する。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション	1	前期内容の確認試験
2	第1章 病理学とはどのような学問か	2	前期内容の確認試験
3	第2章 疾病についての基本的な考え方	3	第6章 進行性病変 (2)
4	第3章 病因 (1)	4	第6章 進行性病変 (3)
5	第3章 病因 (2)	5	第7章 炎症 (1)
6	第3章 病因 (3)	6	第7章 炎症 (2)
7	第3章 病因 (4)	7	第7章 炎症 (3)
8	第4章 循環障害 (1)	8	第8章 腫瘍 (1)
9	第4章 循環障害 (2)	9	第8章 腫瘍 (2)
10	第4章 循環障害 (3)	10	第8章 腫瘍 (3)
11	前期中間試験	11	第9章 免疫異常・アレルギー (1)
12	第5章 退行性病変 (1)	12	第9章 免疫異常・アレルギー (2)
13	第5章 退行性病変 (2)	13	第10章 先天性異常 (1)
14	第5章 退行性病変 (3)	14	第10章 先天性異常 (2)
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	小テスト評価 (15%)、課題評価 (15%)、定期試験評価 (70%) を総合して評価
授業の進め方	教科書を中心にスライド、プリント、画像で分かりやすく説明し、毎回の小テストと課題で理解を深める。
注意 (学生に望むこと)	授業後は必ず復習をしてください。分からないところはそのままにせず、すぐに質問してください。
使用テキスト・参考書	テキスト：『病理学概論』(東洋療法学校協会編) 参考書：随時、おすすめの参考書を授業内で紹介します。

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 AB
科目名	臨床医学総論	曜日・時間	火曜日・1時限

【授業概要・目標】  
東洋療法を実践するうえで必要な臨床医学全般についての知識を修得する。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション	1	運動機能検査-1
2	診察の概要	2	運動機能検査-1
3	医療面接	3	運動機能検査-3
4	視診・触診・打診・聴診	4	女性・小児・高齢者の診察
5	生命徴候	5	臨床検査法-1
6	全身の診察-1	6	臨床検査法-2
7	全身の診察-2	7	おもな症状の診察法-1
8	全身の診察-3	8	おもな症状の診察法-2
9	局所の診察-1	9	おもな症状の診察法-3
10	局所の診察-2	10	おもな症状の診察法-4
11	局所の診察-3	11	おもな症状の診察法-5
12	神経系の診察-1	12	おもな症状の診察法-6
13	神経系の診察-2	13	治療学
14	神経系の診察-3	14	臨床心理
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	筆記試験
授業の進め方	講義形式であるが、対話的に行う。
注意（学生に望むこと）	解剖学・生理学を復習したうえで授業に臨む。
使用テキスト・参考書	臨床医学総論

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 AB
科目名	臨床医学各論 I	曜日・時間	火曜日・4時限

【授業概要・目標】

各疾患についての疫学、成因、症状などを学習する。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	感染症 1	1	腎・尿器疾患 1
2	感染症 2	2	腎・尿器疾患 1
3	感染症 3	3	腎・尿器疾患 3
4	消化器疾患 1	4	内分泌疾患 1
5	消化器疾患 2	5	内分泌疾患 2
6	消化器疾患 3	6	代謝・栄養疾患
7	消化器疾患 4	7	循環器疾患 1
8	肝・胆・膵疾患 1	8	循環器疾患 2
9	肝・胆・膵疾患 2	9	循環器疾患 3
10	肝・胆・膵疾患 3	10	内分泌疾患 3
11	呼吸器疾患 1	11	内分泌疾患 4
12	呼吸器疾患 2	12	血液・造血疾患 1
13	呼吸器疾患 3	13	血液・造血疾患 2
14	前期復習	14	後期復習
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	筆記試験
授業の進め方	板書、配布資料
注意（学生に望むこと）	体の構造と機能をもとに疾患の理解を深める。
使用テキスト・参考書	教科書



2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 AB
科目名	東洋医学各論 I	曜日・時間	月曜日・2時限

【授業概要・目標】

施術者として必要な東洋医学の概念、診断法等の基本的事項について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	気血津液病証①	1	望診①
2	気血津液病証②	2	望診①
3	肝・胆の病証	3	問診①
4	心・小腸の病証	4	問診②
5	脾・胃の病証	5	問診①
6	肺・大腸の病証	6	問診②
7	腎・膀胱の病証	7	問診③
8	心包・三焦の病証	8	切診①
9	全身の気機①	9	切診②
10	全身の気機②	10	四診合参①
11	経絡	11	四診合参②
12	病因病機①	12	四診合参③
13	病因病機②	13	診断論まとめ①
14	病因病機③	14	診断論まとめ②
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	前期：筆記試験による、後期：筆記試験による。その他：出席状況、授業態度なども考慮する
授業の進め方	教科書に基づいて進めるが、学習状況により内容が前後したり、変更したりすることがある
注意（学生に望むこと）	1年時の学習内容がベースになるので復習しておくこと。
使用テキスト・参考書	東洋医学概論

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 AB
科目名	臨床経穴論	曜日・時間	金曜日・4時限

【授業概要・目標】  
臨床に必要な五要穴、五行穴中心に鍼灸臨床実技の科目とリンクしながら進める。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	五行穴、五要の試験・五要穴は何か	1	五行穴、肝経・任脈
2	五要穴・肺経・大腸経	2	五行穴、肝経・任脈
3	五要穴胃経・脾経、	3	常用穴
4	五要穴・心経小腸経	4	常用穴
5	五要穴・膀胱経、	5	常用穴
6	五要穴・腎経	6	常用穴
7	五要穴・心包経、三焦経	7	常用穴
8	五要穴・胆経、肝経	8	常用穴
9	五行穴、肺経・大腸経	9	常用穴
10	五行穴、胃経・大腸経	10	奇穴
11	五行穴、心経・小腸経	11	奇穴
12	五行穴、膀胱経・腎経	12	奇穴
13	五行穴、心包経・三焦経	13	奇穴
14	五行胆経	14	全体の復習
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	前期・後期試験の点数
授業の進め方	板書、配布資料
注意（学生に望むこと）	板書の記録
使用テキスト・参考書	新版経絡経穴概論 教科書 配布資料

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 AB
科目名	東洋療法診断法 I	曜日・時間	火曜日・3時限

【授業概要・目標】  
東洋医学の施術において必要となる診断法の習得。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション	1	舌診
2	鍼灸臨床の流れ・基本事項	2	舌診
3	医療面接	3	脈診
4	バイタルチェック	4	脈診
5	頸肩腕痛の鑑別	5	飲食・便通の問診
6	頸肩腕痛の治療	6	睡眠・月経の問診
7	肩関節痛の鑑別	7	その他の事項の問診
8	肩関節痛の治療	8	痛みについての問診
9	腰下肢痛の鑑別	9	腹診
10	腰下肢痛の治療	10	肝の病証の特徴
11	膝関節痛の鑑別	11	心の病証の特徴
12	膝関節痛の治療	12	脾の病証の特徴
13	その他の疾患の鑑別	13	肺の病証の特徴
14	医療過誤の予防	14	腎の病証の特徴
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	前期・後期試験の点数
授業の進め方	板書、配布資料 実技
注意（学生に望むこと）	板書の記録
使用テキスト・参考書	東洋医学概論、臨床医学総論 教科書 等

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 B
科目名	按摩マッサージ指圧応用 実技 I	曜日・時間	水曜日・1時限

【授業概要・目標】

腹部あん摩、側臥位での施術ができるようになる。臨機応変に対処できるようなる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	一年次の復習	1	側臥位 下腿施術
2	腹部あん摩①	2	側臥位 下腿施術
3	腹部あん摩②	3	側臥位 下腿施術、流注、取穴
4	側臥位 肩背部施術	4	側臥位 頸部施術
5	側臥位 肩背部施術 肩こりに関する 内容説明	5	側臥位 頸部施術、頸部疾患、症状の 説明
6	側臥位 肩背部施術、流注、取穴	6	側臥位 頸部施術、流注、取穴
7	側臥位 上肢施術	7	側臥位 頭部施術
8	側臥位 上肢施術、上腕痛に関する内容 説明	8	側臥位 頭部施術、流注、取穴
9	側臥位 上肢施術、流注、取穴	9	側臥位 肩部、上肢復習（臨床応用）
10	側臥位 腰施術	10	側臥位 腰部、下腿復習（臨床応用）
11	側臥位 腰施術、腰痛に関する内容説明	11	側臥位 頸部復習（臨床応用）
12	側臥位 腰施術、流注、取穴	12	全体復習
13	前期の復習	13	全体復習
14	前期実技試験	14	後期実技試験
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	施術姿勢、習熟度、出席率
授業の進め方	お互いに組み施術。個々人への指導
注意（学生に望むこと）	授業の復習、習得のための練習
使用テキスト・参考書	あん摩マッサージ指圧実技（基礎編）、プリント

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 A
科目名	按摩マッサージ指圧応用 実技 I	曜日・時間	木曜日・1時限

【授業概要・目標】  
あん摩基礎手技の応用と各部位における施術の流れがスムーズにできるよう習得する。

＜前期＞		＜後期＞	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション 1年時の復習	1	下肢（側臥位）の施術
2	腹部のあん摩注意点	2	下肢（側臥位）の施術
3	募穴反応、原穴流注の連なり	3	下肢（側・仰臥位）の復習
4	側背部の施術と病態への施術	4	上下肢適応疾患への施術
5	側背部の施術と病態への施術	5	頸部施術の留意点
6	伏臥位による肩背の施術	6	頸部（側臥位）の施術
7	上肢（側臥位）の施術	7	頸部（側・伏臥位）の施術
8	不定愁訴について	8	肩背腰、上・下肢・腰部の施術
9	腰部（側伏臥位）の施術	9	肩背腰、上・下肢・腰部の施術
10	腰部疾患と経絡の関連	10	頭部（側・伏臥位）の施術
11	肩背腰施術の復習	11	頭部・体幹の施術
12	上肢腰部施術の復習	12	全体復習筆記小テスト
13	総合復習の筆記小テスト	13	全身の実技復習
14	前期実技試験	14	後期実技試験
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	授業態度（出席含）取組と試験の総合
授業の進め方	実技演習を中心とし
注意（学生に望むこと）	各部位病態等を含め各手技を活用出来る様にする
使用テキスト・参考書	『東洋医学臨床論』他プリント等

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 A
科目名	按摩マッサージ指圧応用 実技Ⅱ	曜日・時間	火曜日・2時限

【授業概要・目標】

基本手技を習得し、一般的な全身施術、様々な姿勢に応じた各部位の施術、各種疾患・スポーツ障害・リンパ等への応用を習得すること。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	安：オリエンテーション基本の復習	1	安：美容マッサージ（顔面部）
2	安：全身状態の確認 全身施術	2	安：美容マッサージ（顔面部）
3	安： "	3	安：運動麻痺の施術
4	安：マッサージの応用分野について	4	安：中枢性・末梢性
5	安：マッサージの生体に及ぼす作用	5	安：小児の疾患
6	安：結合織マッサージ	6	安：高齢者の疾患
7	安：産業・保険マッサージ	7	安：総合復習
8	川：リンパマッサージの概要・基本手技	8	川：スポーツマッサージの概要
9	川：リンパマッサージの概要・基本手技	9	川：スポーツ障害：頸上肢痛
10	川：リンパ：頸上肢	10	川：スポーツ障害：頸上肢・肩関節
11	川：リンパ：背・腰・殿部	11	川：スポーツ障害：腰背部痛
12	川：リンパ：下肢	12	川：スポーツ障害：腰・下肢痛・膝
13	川：リンパ：殿部・下肢	13	川：スポーツ障害：膝・下腿・足関節
14	実技試験（口頭試問あり）	14	実技試験（口頭試問あり）
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検川：リンパ：胸部、総合復習	15	

評価の方法	授業（出席）態度、各試験（実技・筆記）での総合評価。授業内にて筆記テスト。
授業の進め方	実技を主として、関連疾患、スポーツ障害等の理解。学生の理解度により、授業の変更あり。
注意（学生に望むこと）	授業への積極的取組、解剖生理等も関連して予習復習もする。
使用テキスト・参考書	教科書、スポーツ東洋療法ハンドブック（医道の日本社）、他プリント等。

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 B
科目名	按摩マッサージ指圧応用 実技Ⅱ	曜日・時間	火曜日・2時限

【授業概要・目標】

基本手技を習得し、一般的な全身施術、様々な姿勢に応じた各部位の施術、各種疾患・スポーツ障害・リンパ等への応用を習得すること。

＜前期＞		＜後期＞	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	川：オリエンテーション基本の復習	1	川：美容マッサージ（顔面部）
2	川：全身状態の確認 全身施術	2	川：美容マッサージ（顔面部）
3	川： "	3	川：運動麻痺の施術
4	川：マッサージの応用分野について	4	川：中枢性・末梢性
5	川：マッサージの生体に及ぼす作用	5	川：小児の疾患
6	川：結合織マッサージ	6	川：高齢者の疾患
7	川：産業・保険マッサージ	7	川：総合復習
8	安：リンパマッサージの概要・基本手技	8	安：スポーツマッサージの概要
9	安：リンパマッサージの概要・基本手技	9	安：スポーツ障害：頸上肢痛
10	安：リンパ：頸上肢	10	安：スポーツ障害：頸上肢・肩関節
11	安：リンパ：背・腰・殿部	11	安：スポーツ障害：腰背部痛
12	安：リンパ：下肢	12	安：スポーツ障害：腰・下肢痛・膝
13	安：リンパ：殿部・下肢	13	安：スポーツ障害：膝・下腿・足関節
14	実技試験（口頭試問あり）	14	実技試験（口頭試問あり）
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検安：リンパ：胸部、総合復習	15	

評価の方法	授業（出席）態度、各試験（実技・筆記）での総合評価。授業内にて筆記テスト。
授業の進め方	実技を主として、関連疾患、スポーツ障害等の理解。学生の理解度により、授業の変更あり。
注意（学生に望むこと）	授業への積極的取組、解剖生理等も関連して予習復習もする。
使用テキスト・参考書	教科書、スポーツ東洋療法ハンドブック（医道の日本社）、他プリント等。

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 A
科目名	按摩マッサージ指圧応用 実技Ⅲ	曜日・時間	水曜日・2時限

【授業概要・目標】

指圧全身治療法の習得。覚える為には反復練習あるのみ。1年間で3回、反復練習を行いたい。1回目は施術法を覚える。2回目は圧の方向、施術順の意味、等各施術の意義を確認しながら行う。3回目はより細かく、TEXTに無い部位の施術法も教える。圧する時の姿勢、心構えも覚えてもらいたい。座学は10分程度で、出来るだけ実技の時間とする。各部位施術の際には入れて話したい。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	圧す姿勢の確認(どのような姿勢、腕の状態ですれば良いか)	1	オリエンテーション(授業の進め方、評価方法)患者接遇のポイント、基本手技確認
2	圧法の基本の確認、圧の程度、長さ、間隔の確認。2線の押し方。全身施術、脊柱棘突起の触診	2	オリエンテーション(授業の進め方、評価方法)患者接遇のポイント、基本手技確認
3	全身施術、軽擦→棘突起触診→背部伸展→脊柱手掌圧→母指圧迫(背部)→骨盤上縁→臀溝→下肢	3	全身施術の流れ(伏臥位での下肢部・肩背部)
4	全身施術、前回の復習、肩部の施術	4	全身施術の流れ(仰臥位での頸部・頭部・顔面部・鎖骨下部)
5	全身施術、前回の復習、伏臥位、頸部の施術	5	全身施術の流れ(仰臥位での上肢部・下肢部・腹部)
6	全身施術、前回の復習、頭部→頸部の施術	6	全身施術の流れ(側臥位での施術と注意点)
7	全身施術、前回の復習、上肢の施術→運動法(これで伏臥位施術終了)	7	全身施術の復習、施術時間配分の重要性
8	全身施術、伏臥位施術の復習、仰臥位、前頸部の施術	8	全身施術の復習、病態把握のポイント
9	全身施術、前回の復習、顔面部施術	9	リスク管理の重要性①
10	全身施術、前回の復習、仰臥位、上肢→下肢の施術	10	リスク管理の重要性②
11	全身施術、前回の復習、腹部の施術	11	全身施術の復習、疾患に対する問診演習①
12	全身施術、前回の復習、仕上げ施術	12	全身施術の復習、疾患に対する問診演習②
13	実技テスト、全身施術反復練習	13	実技試験①(全身施術および口頭試問)
14	筆記テスト、国家試験より	14	実技試験②(全身施術および口頭試問)
◆	前期試験(試験監督は教職員・専任教員)		
15	評価点検評価点検、全身施術(チェック項目を確認しながら)	15	

評価の方法	施術姿勢、習熟度。
授業の進め方	一歩通行にならないよう、対話形式で行う。



## 2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

注意（学生に望むこと）	施術手順のみで無く、それぞれの手技の意味、施術している部位の意味、等を学んでほしい。
使用テキスト・参考書	プリント使用

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 B
科目名	按摩マッサージ指圧応用 実技Ⅲ	曜日・時間	水曜日・2時限

【授業概要・目標】

基本手技を応用し、身体各部位の施術・全身の施術が適切かつ効率的に実践できるように実技演習をおこなう。施術に際して必要な医学的知識・リスク管理・患者接遇等も併せて学習する。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション（授業の進め方、評価方法）患者接遇のポイント、基本手技確認	1	治療原則、治療方針 等
2	全身施術の流れ（伏臥位での背腰部・殿部）	2	治療原則、治療方針 等
3	全身施術の流れ（伏臥位での下肢部・肩背部）	3	各疾患の治療法…肩関節痛、上肢痛
4	全身施術の流れ（仰臥位での頸部・頭部・顔面部・鎖骨下部）	4	各疾患の治療法…頭痛
5	全身施術の流れ（仰臥位での上肢部・下肢部・腹部）	5	各疾患の治療法…顔面痛、顔面麻痺
6	全身施術の流れ（側臥位での施術と注意点）	6	各疾患の治療法…眼精疲労
7	全身施術の復習、施術時間配分の重要性	7	各疾患の治療法…鼻閉、鼻汁
8	全身施術の復習、病態把握のポイント	8	各疾患の治療法…めまい、耳鳴りと難聴
9	リスク管理の重要性①	9	各疾患の治療法…咳嗽、喘息、喘鳴
10	リスク管理の重要性②	10	各疾患の治療法…胸痛、腹痛
11	全身施術の復習、疾患に対する問診演習①	11	各疾患の治療法…スポーツ医学におけるあま指療法①
12	全身施術の復習、疾患に対する問診演習②	12	各疾患の治療法…スポーツ医学におけるあま指療法②
13	実技試験①（全身施術および口頭試問）	13	実技テスト
14	実技試験②（全身施術および口頭試問）	14	筆記テスト（国家試験より）
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	出席・授業態度および試験（実技・口頭試問）の結果により総合的に評価する。
授業の進め方	実技演習を中心に、配布資料等を使いながら授業を進める。
注意（学生に望むこと）	特になし。
使用テキスト・参考書	プリント等を配布。

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 A
科目名	鍼灸応用実技 I	曜日・時間	金曜日・2時限

【授業概要・目標】  
患者の誘導から、実技（特殊鍼法も含めて）まで幅広く、学習・訓練してもらいます。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	実技のオリエンテーション 1	1	実技の訓練
2	実技のオリエンテーション 2	2	実技の訓練
3	実技の訓練	3	実技の訓練
4	実技の訓練	4	実技の訓練
5	実技の訓練	5	実技の訓練
6	実技の訓練	6	実技の訓練
7	実技の訓練	7	実技の訓練
8	実技の訓練	8	実技の訓練
9	実技の訓練	9	実技の訓練
10	実技の訓練	10	実技の訓練
11	実技の訓練	11	実技の訓練
12	実技の訓練	12	実技の訓練
13	実技の訓練	13	実技の訓練
14	実技の訓練	14	実技の訓練
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	出席・定期試験により評価する。
授業の進め方	実技の訓練と知識を付けるように授業をすすめる。
注意（学生に望むこと）	特に灸について行う。
使用テキスト・参考書	なし

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 B
科目名	鍼灸応用実技 I	曜日・時間	金曜日・2時限

【授業概要・目標】

鍼灸臨床の中で多く扱われている頸部、肩関節、腰部、膝関節部を中心に構造や傷害の発生のメカニズムを知り、問診法、鑑別診断力、局所への治療技術の基礎を身につける。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	身体診察・計測	1	腰部-1
2	関節可動域	2	腰部-1
3	頸部-1	3	股関節・大腿部
4	頸部-2	4	膝-1
5	肩部-1	5	膝-2
6	肩部-2	6	下腿部・足部
7	肘部	7	腰・下肢：鑑別法-1
8	前腕・手指	8	腰・下肢：鑑別法-2
9	頸・上肢：鑑別法-1	9	腰・下肢：鑑別法-3
10	頸・上肢：鑑別法-2	10	症例検討-1
11	頸・上肢：鑑別法-3	11	症例検討-2
12	頸・上肢：鑑別法-4	12	症例検討-3
13	頸部・上肢総合-1 実技試験	13	症例検討-4 実技試験
14	頸部・上肢総合-2 実技試験	14	症例検討-5 実技試験
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	出席、授業態度、口答・実技・筆記試験、課題提出の総合評価とする。
授業の進め方	授業のテーマを予習（解剖構造、検査法のノート作成）、授業でポイントを確認しながら実技の習熟度を高めていく。
注意（学生に望むこと）	積極的に課題（ノート作成）に取り組み、構造や動きを理解すること。患者想定で会話をしながら繰り返した実技練習に取り組むこと。
使用テキスト・参考書	問診診察ハンドブック、解剖学教科書、その他必要に応じて示指する。

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 A
科目名	鍼灸応用実技Ⅱ	曜日・時間	木曜日・2時限

【授業概要・目標】  
身体に触れる事と正常な状態を知る訓練、意識すること

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	五行穴、五要穴等の復習	1	難経について
2	選穴法についての説明①	2	難経について
3	選穴法についての説明②	3	69 難(経病)とその治療②
4	選穴法についての説明③	4	69 難(経病)とその治療③
5	同経配穴と鍼実技	5	69 難(経病)とその治療④
6	特定配穴と鍼実技	6	69 難(経病)とその治療⑤
7	愈穴配穴と鍼実技	7	69 難(経病)とその治療⑥
8	子午流注配穴と鍼実技	8	69 難(経病)とその治療⑦
9	原絡配穴と鍼実技	9	69 難(経病)とその治療⑧
10	愈募配穴と鍼実技	10	69 難(経病)とその治療⑨
11	郄会配穴と鍼実技	11	69 難(経病)とその治療⑩
12	八脈配穴と鍼実技	12	69 難(経病)とその治療⑪
13	各種配穴と鍼実技	13	69 難(経病)とその治療⑫
14	各種配穴と鍼実技	14	70 難(経病)とその治療⑬
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	授業への取り組みと筆記、実技試験との総合判定
授業の進め方	配布プリント、他参考プリント等による
注意 (学生に望むこと)	常に予習・復習
使用テキスト・参考書	

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸指圧科 2年 B
科目名	鍼灸応用実技Ⅱ	曜日・時間	木曜日・2時限

【授業概要・目標】  
実技を中心とした授業。治療目的を構成するための基本を身につける。応用できるようにする。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	1年時の実技基本の確認。	1	五俞、五行穴について説明、取穴
2	経絡の概念等について	2	五俞、五行穴について説明、取穴
3	選穴、実技における過誤の処置、捻鍼法の説明	3	六十九難の説明
4	選穴、選穴を中心とした取穴、刺鍼（捻鍼）	4	肺、脾虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
5	選穴、選穴を中心とした取穴、刺鍼（捻鍼）	5	心、肝虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
6	配穴説明、配穴中心の取穴、刺鍼	6	心包、肝虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
7	配穴説明、配穴中心の取穴、刺鍼	7	肝、腎虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
8	配穴説明、配穴中心の取穴、刺鍼	8	腎、肺虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
9	補瀉説明と実技	9	大腸、胃虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
10	補瀉の実技	10	三焦、小腸、胆虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
11	総復習	11	膀胱、大腸虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
12	総復習	12	総復習
13	前期実技試験	13	後期実技試験
14	前期復習	14	後期復習
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	実技 80%、平常点 20%で評価
授業の進め方	毎回組む相手を替え、その日の課題に対して実技を行う。
注意（学生に望むこと）	施術に対して真剣に取り組む。
使用テキスト・参考書	

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	専任教員	学科・年	鍼灸指圧科 2年
科目名	臨床実習①	曜日・時間	月火水木・3・4時限

【授業概要・目標】

①患者と適切なコミュニケーションがとれる。②施術準備ができる。③基本的な事項について診療録に記載ができる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	臨床実習前授業 (I)	1	臨床実習 (15)
2	臨床実習前授業 (II)	2	臨床実習 (16)
3	臨床実習 (1)	3	臨床実習 (17)
4	臨床実習 (2)	4	臨床実習 (18)
5	臨床実習 (3)	5	臨床実習 (19)
6	臨床実習 (4)	6	臨床実習 (20)
7	臨床実習 (5)	7	臨床実習 (21)
8	臨床実習 (6)	8	臨床実習 (22)・振り返り
9	臨床実習 (7)	9	
10	臨床実習 (8)	10	
11	臨床実習 (9)	11	
12	臨床実習 (10)	12	
13	臨床実習 (11)	13	
14	臨床実習 (12)	14	
◆	臨床実習 (13)	◆	
15	臨床実習 (14)	15	

評価の方法	身だしなみ・参加意欲・実習生同士の協調性・患者接遇などを総合的に評価する。
授業の進め方	指導教員の施術見学、施術所の環境整備、施術準備（補助）などを中心に行う。
注意（学生に望むこと）	積極的に実習に参加してもらいたい。
使用テキスト・参考書	なし

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	専任教員	学科・年	鍼灸指圧科 2年
科目名	臨床実習②	曜日・時間	月火水木・3・4時限

【授業概要・目標】

①患者と適切なコミュニケーションがとれる。②施術準備ができる。③基本的な事項について診療録に記載ができる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	臨床実習前授業 (I)	1	臨床実習 (15)
2	臨床実習前授業 (II)	2	臨床実習 (16)
3	臨床実習 (1)	3	臨床実習 (17)
4	臨床実習 (2)	4	臨床実習 (18)
5	臨床実習 (3)	5	臨床実習 (19)
6	臨床実習 (4)	6	臨床実習 (20)
7	臨床実習 (5)	7	臨床実習 (21)
8	臨床実習 (6)	8	臨床実習 (22)・振り返り
9	臨床実習 (7)	9	
10	臨床実習 (8)	10	
11	臨床実習 (9)	11	
12	臨床実習 (10)	12	
13	臨床実習 (11)	13	
14	臨床実習 (12)	14	
◆	臨床実習 (13)	◆	
15	臨床実習 (14)	15	

評価の方法	身だしなみ・参加意欲・実習生同士の協調性・患者接遇などを総合的に評価する。
授業の進め方	指導教員の施術見学、施術所の環境整備、施術準備（補助）などを中心に行う。
注意（学生に望むこと）	積極的に実習に参加してもらいたい。
使用テキスト・参考書	なし